

教員一覧及び、研究テーマ

山口明夫	癌により日常生活や社会生活に制限を受ける患者の、病態解釈に関する基礎研究や、生活再構築から社会復帰へ向けての包括的なアプローチの実践に関する研究指導を行う。
小林康孝	中枢神経疾患に伴う運動障害や高次脳機能障害を有する患者が、自立した日常生活を送り、安全性・生産性をもった社会活動を営むために必要な、新しい医療技術の開発や支援体制の確立に関する研究指導を行う。
林浩嗣	脳血管障害、神経変性疾患、認知症などの中枢神経疾患により障がいをもった者の栄養状態を調査し、身体機能や日常生活動作の維持に寄与するようリハビリテーションに関する研究指導を行う。
小俣直人	精神障がい者が、社会への貢献も含めた自立的な生活を送れるようになる実践的な取り組みについて、精神疾患に関する生物学的あるいは精神病理学的な視点も鑑みながら立案し、本学および関連機関にて実施する。データを収集し、分析・考察して論文作成の指導を行う。
供田文宏	近年増加の一途を辿る生活習慣病の予防と克服のため、地域を拠点とした生活習慣改善の取り組みと実践について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文指導を行う。
堀秀昭	障がいを持った者が社会に戻るための環境を調査し、身体機能の維持・向上、健康寿命の延伸に寄与するような支援方法や社会資源の活用に関する研究指導を行う。
佐藤万美子	脳血管障害による身体障害者や高次脳機能障害者が、入院生活から社会へ戻り、さらには職業復帰するにあたり障壁となる要因を科学的に分析し、それに対する新しい支援技術を開発する研究指導を行う。
北川敦子	創傷関連に起因する健康障害を主軸に置きながら、慢性疾患など生活に影響をもたらす疾患をもつ対象者とその家族が積極的な社会参加を実現するための新しい支援策の開発から臨床評価、さらにこのエビデンスを用いた実装研究に関する指導を行う。
寺島喜代子	さまざまな健康障害や機能障害を有して病院や高齢者施設、在宅などで過ごす高齢者の健康支援や家族、職員が直面する課題などに関して、文献検討を重ねて自己の研究疑問を明確化し研究計画を立てる。倫理審査の承認を得て、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。
塩見格一	パソコンやタブレット等を利用した一般的な、また独自のパフォーマンステスト及び、音声分析技術を利用した疲労及びストレスの定量化技術の研究開発を基に、障がい者を含む被験者の日常生活における様々なワークロードの分析とその低減に関する研究指導を行う。
川端香	後天性脳損傷による高次脳機能障害を有する患者を対象とし、病態解釈に必要な脳機能に関する基礎研究や、自己認識の促進と社会生活の改善に寄与するよう新たなリハビリテーションの開発に関する研究指導を行う。
藤田和樹	神経疾患を有する患者や虚弱高齢者の運動機能障害に対して、生体運動解析を基盤に障害構造を解明し、根拠に基づく予防・治療法の考案および開発に関する研究指導を行う。
猪口徳一	人体の発生と発達の仕組みについて、最先端の知識と研究技術を修得し、それを基盤として独創性の高い基礎医学研究を推進できる研究者の育成を行う。生化学的解析、遺伝子発現データ解析、遺伝子操作技術などを用いて未知の生体システムを研究することで、エビデンスに基づく医療の推進や、再生医療に向けた新たな生体機能の解明に関する研究指導を行う。